NEWS RELEASE

【報道関係各位】

2026 年 11 月 12 日
一般財団法人日本気象協会

日本気象協会、「エリア風力発電出力予測 API」の提供を開始

～全国 10 電力エリアの風力発電出力を最大 78 時間先まで予測、電力需給管理や電力取引を支援～

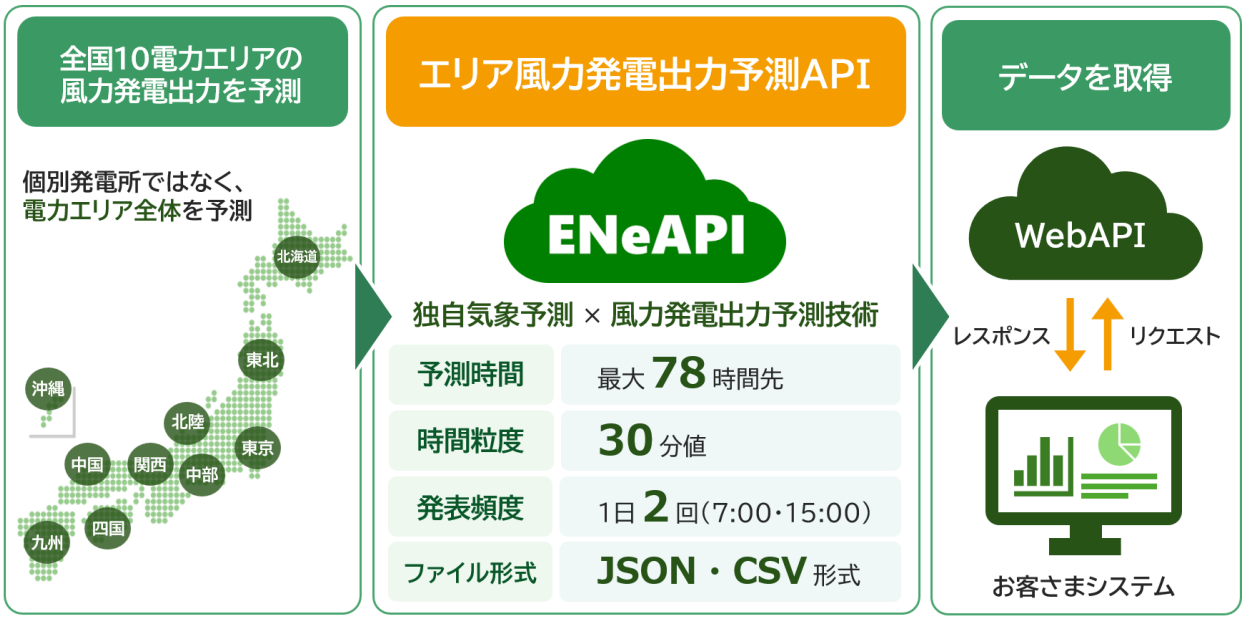
一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：守屋 岳、以下「日本気象協会」）は、エネルギー事業者向け API サービス「ENeAPI（エネエーピーアイ）」(注 1)の新たなサービスとして、「エリア風力発電出力予測 API」（以下「本サービス」）の提供を 2026 年 11 月 12 日（木）から開始します。

ポイント

- ENeAPI の新たなサービスとして、「エリア風力発電出力予測 API」の提供を開始
- 全国 10 電力エリアの風力発電出力を最大 78 時間先まで 30 分値で予測
- 風力発電出力の変動を事前に把握し、電力取引の判断や、電源調達、電力需給管理を支援

本サービスは、日本気象協会独自の気象予測データと風力発電出力予測技術を活用し、全国 10 電力エリアの風力発電出力を最大 78 時間先まで 30 分値で予測するサービスです。風力発電出力の増減をエリア単位で事前に把握することで、電力市場における取引の判断や電源調達量の検討、電力需給計画の策定・見直しを支援します。

日本気象協会はこれまで、電力事業者の需給管理を支援するため、全国 10 電力エリアを対象とした「エリア需要予測サービス」(注 2)を提供してきました。本サービスの提供開始により、電力需要に加え、風力発電出力についてもエリア単位の予測情報を提供できるようになります。さらに今後は「エリア太陽光発電出力予測 API」の提供も予定しており、電力需要と再生可能エネルギー発電出力の双方を見通すことで、電力取引の判断や電源調達、需給管理などの幅広い業務を支援し、電力の安定供給と再生可能エネルギーの有効活用に貢献します。



「エリア風力発電出力予測 API」の概要図

1. サービスの概要

本サービスは、北海道から沖縄までの全国 10 電力エリアを対象に、洋上風力発電を含む各エリアの風力発電出力を予測する API サービスです。

日本気象協会独自の気象予測データとこれまで培ってきた風力発電出力予測技術を用いて各電力エリアの風力発電出力を最大 78 時間先まで 30 分値で予測します。個別の発電所ではなく、電力エリア全体の風力発電出力を一つの予測値として把握できることが、本サービスの特徴です。これにより、風力発電出力の増減をエリア単位で把握し、電力市場での取引の判断や電源調達量の検討、広域的な需給計画の策定・見直しなどに活用できます。

2. 背景

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーの導入拡大が進められています。特に洋上風力発電では、2030 年までに 10GW、2040 年までに浮体式も含む 30～45GW の案件形成が政府目標として掲げられており、今後さらなる導入拡大が見込まれています。(注 3)

一方、風力発電は風速などの気象条件によって発電出力が大きく変動します。風力発電の導入拡大に伴い、こうした出力変動が電力エリア全体の需給バランスに与える影響も大きくなることが想定されます。そのため、個別の発電所だけでなく、電力エリア全体で「いつ、どの程度の風力発電出力が見込まれるか」を事前に把握し、電力市場における取引の判断や電源調達、需給計画などに反映することが重要です。

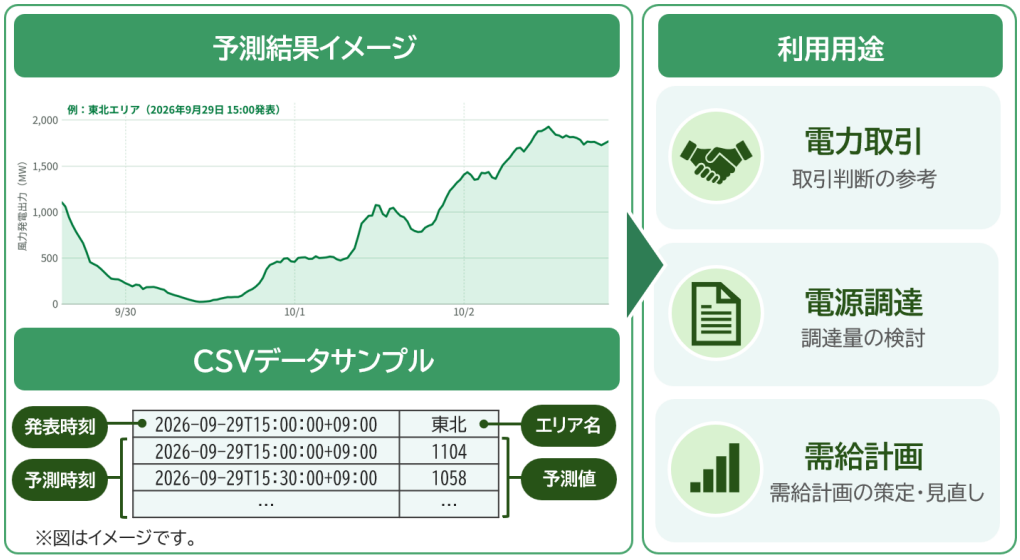
日本気象協会はこれまで、風力発電事業者や小売電気事業者などに向けて、風向・風速予測や風力発電出力予測を提供してきました。2024 年 1 月には国内外の複数気象モデルによる統合予測と AI 技術を組み合わせた風力発電出力予測サービス「SYNFOS-wind（シンフォス ウィンド）」を、2025 年 1 月には、風車のハブ高さや発電特性を考慮した「2 週間風力発電出力予測 API」(注 4)の提供を開始するなど、風力発電に関する予測サービスを拡充しています。

また、電力需要予測分野では、全国 10 電力エリアを対象とする「エリア需要予測サービス」も提供しており、電力エリア単位での需給管理を支援してきました。

こうした風力発電出力予測と電力需要予測で培った技術・知見を活用し、今回新たに、電力エリア全体の風力発電出力を予測する「エリア風力発電出力予測 API」を開発しました。

3. 利用用途

- 電力市場での取引判断に用いる参考情報
- 風力発電出力の増減を踏まえた電源調達量の検討
- 電力需給計画の策定・見直し



「エリア風力発電出力予測 API」の提供イメージと利用用途

なお、日本気象協会では、今後「エリア太陽光発電出力予測 API」の提供も予定しています。風力・太陽光のエリア予測をはじめ、ENeAPI における再生可能エネルギー関連サービスの拡充を進めていきます。

4. 提供仕様

本サービスの提供仕様は以下のとおりです。

予測対象	エリア風力発電出力[単位:MW]
予測期間	最大78時間先
時間粒度	30分値
対象エリア	全国10電力エリア（北海道、東北、東京、中部、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄）
発表頻度	1日2回（7:00、15:00）
提供方法	WebAPI（ENeAPI）
ファイル形式	JSON形式、CSV形式

5. サービス開始日

2026 年 11 月 12 日（木）

6. サービスの詳細や導入に関するお問い合わせ（法人向け）

日本気象協会　環境・エネルギー本部　環境・エネルギー支援室
Mail：ke-eigyo_kankyo@jwa.or.jp
＊報道関係の方は日本気象協会　広報室までお問い合わせください。

（注 1）：ENeAPI（エネエーピーアイ）
日本気象協会が提供する、エネルギー事業者向け API サービス。
https://www.jwa.or.jp/services-solutions/electric-power-demand-forecast/eneapi-api-service-for-energy/

（注 2）：日本気象協会、「DR 最適発動支援のためのエリア需要予測サービス」を開始　～電力事業者の節電要請と容量拠出金の負担軽減などを支援～（2024/05/28　日本気象協会ニュースリリース）
https://www.jwa.or.jp/news/2024/05/23042/

（注 3）：経済産業省「浮体式洋上風力発電に関する国内外の動向　浮体式洋上風力の低コスト化事業の進め方」
https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/green_innovation/green_power/pdf/013_07_00.pdf

（注 4）：日本気象協会、風車ハブ高さに対応した風力 API「2 週間風力発電出力予測 API」を新たに提供開始
～エネルギー事業者向け API サービス「ENeAPI」がさらに使いやすく～（2025/01/14　日本気象協会ニュースリリース）
https://www.jwa.or.jp/news/2025/01/24976/

*「ENeAPI」は日本気象協会の登録商標（登録第 6574904 号）です。
*「SYNFOS」は日本気象協会の登録商標（登録第 4935276 号）です。

以上